



AAFA Technical Study Group Report 第 8 回道東ブロックカブスリーグ U-15 第 14 節 FC 網走 vs SC 釧路

2016 年 10 月 9 日(日) 網走スポーツトレーニングフィールド
【報告】田中 克貴・沖野 大志・泉 祐太郎(2 種委員会)

【大会概要】

本大会は、網走地区・釧路地区・根室地区・十勝地区所属の 8 チームによるリーグ戦方式(2 回戦総当たり)であり、試合時間は 80 分である。

今回は、前節までで 5 位残留という結果を残し、最終節である本節を 3 年生の集大成のゲームとして戦った FC 網走 U-15 対 SC 釧路 U-15(1-2 で惜敗)の試合を報告する。



【成果】

【1】フィジカルの強さ

FC 網走は、前線の選手へのロングボールで攻撃を仕掛け、相手のサイドを攻略しようとしていた。試合終了まで、運動量を落とさず体を張ったプレーが多く見られた。得点も、試合終盤の 79 分に中盤の選手が相手ゴール前まで長い距離を走って決めたものだった。また、ヘディングの競り合いで競り勝ったり、ルーズボールのコンタクトプレーで体を張ってボールをキープしたりする場面も多かった。網走地区の選手はコンタクトプレーを避ける傾向があるが、FC 網走の選手たちを見ていると、この点は改善傾向にあると感じた。

【2】守備意識の高さ

攻撃から守備への切り替えが早く、ボールを奪われたらすぐに自陣に戻って数的優位をつくり出し、集結してボールを奪おうとしていた。チャレンジ&カバーの意識がチーム全体で共有されており、個で突破を図ってくる相手にも粘り強く対応できていた。また、GK も安定したセービングを見せ、多くのピンチを救っていた。

【課題・まとめ】

【1】ポジショニング

相手のアタッキングサードまで攻め込み、SC 釧路の選手が前線に 1 人しか残っていないにも関わらず、4 バック全員が後方に残り、4vs1 (後方に人数が余っている)状況になる場面が多々見られた。そのため、サポートの距離が遠くなって前線が孤立したり、ボールを奪われてもすぐに奪い返しに行くことができなかったりするなど、攻撃が単調になってしまっていた。ボールの位置や味方、相手を見て、適切なポジションを取り続けられるようにしたい。

【2】自ら判断してプレーする

攻守の切り替え時に、ボールを奪った後はまず前線の選手にロングボール、奪われた後はまず自分のポジションに戻る、といったチーム戦術優先のプレーを選択する選手が多く見られた。中盤の選手に確実につなげる場面でも前線にロングボールを蹴り込むまたはクリアーをしてしまう、奪い返しにいける場面でも先にポジションに戻ってしまうのは、選手が自ら判断をせず、チームの約束事を優先してプレーしているからだと思われる。チーム戦術を身に付けることも重要だが、自らが判断し、状況に応じてプレーを選択できる選手を育成することの大切さ・難しさを改めて感じた。

最後になりましたが、大会運営に当たられた関係者の皆様、FC 網走 U-15 の指導者の皆様、ありがとうございました。

